

令和6年〔2024年〕度 自己点検・自己評価

学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園

園長 古閑 博美

自己評価・学校関係者評価委員会

本園は平成30年（2018年）度より教職員を対象に「自己評価」を実施し、評価内容に改善を加えながら今日に至っております。

令和3年（2021年）度に外部識者及び本園理事長、園長、事務長（他に事務局担当職員2名）からなる自己評価・学校関係者評価委員会を立ち上げ、毎年3月に園内で委員会を開催しております。令和6年度より、職員のほか本園ご利用者を対象に「自己点検・評価アンケート」を実施しますのでご協力をよろしくお願いいたします。

自己点検・自己評価を行う意味は、教育と経営の改善と発展にあります。自己評価とは、「学校評価の最も基本となるものであり、校長（園長）のリーダーシップの下で当該学校（幼稚園）の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らしてその達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うもの」です。

文中の「(園長)」「(幼稚園)」は古閑。

www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/06/13/1323515_02.pdf 平成30年（2018年）12月26日閲覧引用)

また、幼稚園は学校教育の始まりであるとして次のように示されています。

これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、こうした**教育の目的及び目標**（※）の達成を目指しつつ、一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各幼稚園において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。」

（※）「教育は、教育基本法第1条に定めるとおり、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期すという目的のもと、同法第2条に掲げる次の目標を達成するよう行わなければならない。（後略）」（『幼稚園教育要領解説』平成30年3月、文部科学省、286頁）

「幼稚園は子どもがはじめて出会う学校です。」（『私幼時報』全日本私立幼稚園連合会・公益財団法人）が合致します。

※『幼稚園教育要領解説』は10年毎に改定。最新版は、平成30年（2018年）3月出版。

アンケートにご協力くださる方は、結果は“本園の今後の教育・保育計画及び経営に生かす”という趣旨をご理解のうえ、本園の経営方針を踏まえて教育と保育全般を客観的かつ総合的に評価してください（匿名不可）。

なお、調査に協力したくないからといって不利益を被ることは一切ありません。

本調査は本園の情報管理規定に基づき、個人が特定されるような情報の漏洩防止とプライバシーの保護を徹底したうえで、目的（結果報告、発表〔含 HP〕、論文執筆等）のみに使用いたします。

.....

学校法人練馬みどり学園 田柄幼稚園 ー教育理念・目標・方針ー

教育理念：「子どもは何ものにもかえがたい宝である」（創立者 吉田 富五郎）

教育目標：『『ただしい子（知性の涵養）』『うつくしい子（情操の陶冶）』『つよい子（意志の形成）』『あかるい子（心身の健康）』の育成』

教育方針：「教育理念の下、**全身教育※1**を推進し、教育目標の達成を目指します。『**3つの大切なもの**』**※2**を強調し、『4つの自（自発、自立、自律、自尊）』の萌芽を促します。」

※1「全身教育」とは「全身にさまざまな刺激を与えることにより心身の善的発達に寄与する教育」のこと（古閑博美 2018）

※2「3つの大切なもの」とは「いのち（生命力）・こころ（心力）・からだ（体力）」のこと

各学年並びに特別教室は、教育（保育）課程（「社会に開かれた教育課程」『幼稚園教育要領解説』p.2）を基に教室運営の目的と内容及び使用テキスト等を決定し、園児の発達段階を踏まえて継続的・段階的・発展的な教育に取り組んでいます。

「カリキュラム」とは「全教科課程、教育課程」のことで、広義には学習者の学習経路を枠づける教育内容の系列であり、狭義には学校教育の内容を発達段階や学習目標に応じて系統的に配列した教育課程のことです。一般にカタカナ表記が定着しています。

年間行事のほか、カリキュラム等の運営・実施計画は、学事日程（予定）に組み込んで周知し、正課科目のシラバス（年間実施計画）はホームページ（HP）に掲載しています。教育時間に実施するカリキュラム等は、学年で統一するもの以外クラス毎に計画し、実施しています。

『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 平成 30 年 3 月）には、「カリキュラム・マネジメント」として、以下に挙げた 6 点（①～⑥）の実現を目指すと明示されています（p.3）。本園はこれらの実行と改善に努めております。

- ① 「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ② 「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ③ 「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の皆瀬・充実）
- ④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑤ 「何が身に着いたか」（学習評価の充実）
- ⑥ 「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

以上

文責 古閑 博美

※提出締め切り：2025 年 1 月 15 日正午／提出先：q@nmg.ed.jp

○件名「2024 年度自己点検・自己評価アンケート」回答 ○○組

○本文不要

.....
〔記入方法〕 A、B、C、D の 4 段階評価です。該当する欄に○を付けてください。

A：たいへんよい B：よい C：検討を要する D：改善を要する

・意見や提案、改善策等があれば、項目ごとに記述してください。

.....
ご協力に感謝申し上げます。

項目	内容	評価				意見 改善策等
		A	B	C	D	
教育 (保育) 目標	(1)教育(保育)目標は、幼稚園の理念や特色を反映している。					
	(2)教育(保育)目標は幼児の実態を踏まえたもので、シラバス(年間教育計画)に反映している。					
	(3)教育(保育)目標の実現に社会の要請や、保護者の願いを反映し、改善を加えている。					
シ ラ バ ス	(1)幼児の実態や、発達段階に即してシラバスを作成しており概ね適切である。					
	(2)『幼稚園教育要領解説』(文部科学省平成30年3月)に基づいた取り組みと支援は適切である。 ※同書は10年ごとに改定					
	(3)環境構成を意識し、教育内容に工夫しており、幼児教育の改善と向上につながっている。					
カリ キュ ラム	(1)1日の流れ(デイリーカリキュラム)は常に見直しており、教育に適切に反映している。					
	(2)教師は週報を作成し、教室運営に役立てていることは知っている。					
	(3)カリキュラムは学年間の引継ぎや幼少接続を意識した内容である。					
行 事	(1)行事の種類や実施回数は適切で、保護者の願いや意見に配慮している。 ※三大行事(公開教育、運動会、子ども会)のほか、夏季・園外教育(遠足や収穫体験等)等がある。					
	(2)行事は「ねらい」が適切で、計画や実施に十分生かされている。 ※すべての行事と企画の実施計画は事前に作成し、職員会議で諮り、ねらいや意義などを全職員が共有している。					
	(3)幼児の活動領域や範囲を明確にし、社会性(自発・自律・自立・自尊)の育成や態度形成(三立<立腰立額立身>)など、実際的な教育活動に取り組んでいる。 ※園内外で教育的取組全般を通じて活動している。					

◎ 教育・保育計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価				意見 改善策等
		A	B	C	D	
分掌 ・ 体制	(1)能率的かつ合理的で風通しのよいクラス運営になっている。					
	(2)担任は、園内での子どもの様子を保護者に適切に伝えている。					
	(3)職員の配置や仕事の分担は概ね適材適所である。					
連絡	(1)必要な通知は適切に配信されている。					
	(2)必要な情報は前もって知ることができている。					
	(3)子どものケガや様子の変化などは、都度連絡がある。					
学級 経 営	(1)学級の経営目標は、教育・重点目標及び幼児の実態に即して設定している。					
	(2)同年齢及び異年齢児間の効果的な活動が充実している。 ※他学年の活動の見学（行事予行、もちつき他）等のほか、通園バス利用児の親切行動（高学年が低学年をクラスに先導）、園庭遊び等で交流。					
	(3)学級経営は適切で子どもの成長に期待が持てる。					
健康 ・ 安全	(1)幼稚園は、学級経営に必須な保健対策を具体的に講じている。					
	(2)避難訓練や交通安全、防犯・防災指導を計画し、適切に実施している。					
	(3)健康的で安全な生活に必要な習慣や態度形成のため、家庭と連携を取っている。					
研究 ・ 研 修	(1) 研究教育園として教育実習生の受け入れや大学等の研究依頼などに応じている。 ※教育実習生として毎年、専門学校、短期大学（部）、大学等から受け入れています。					
	(2) 教師は研究テーマを持って幼児教育に取り組み、幼児理解を深めている。					

	<p>(3)職員は、各種研究会、研修会、講習会や学会に積極的に参加している。</p> <p>※練馬区私立幼稚園教育研修会班別研修 ほか</p> <p>※魅力行動学会研究会：毎年7月第2土曜日@本園</p>					
--	--	--	--	--	--	--

◎開かれた幼稚園づくりに関する評価

項目	内容	評価				意見 改善策等
		A	B	C	D	
情報 取 扱 い	(1) 園児や保護者に関する個人情報 は適正に取り扱っている。					
	(2) 公文書の收受や発送、処理等は適切に行っている。					
	(3) 各文書は適切な方法で作成し保管のうえ、的確に処理している。					
施設 安 全 管 理	(1) 施設や設備の安全に関わる点検は計画的に行い、者度記録している。 ※毎月定期点検実施@建物、園庭、遊具等全施設					
	(2) 遊具・用具等は活用しやすいように整理し、保管している。					
	(3) 安全安心な環境を維持するため、園内外の必要部署や担当と連携し、必要な情報は告知用の掲示板や連絡ツールを適切かつ効果的に活用して案内している。 ※園内外の掲示板、「れんらくアプリ」やHP など					
出 納 経 理	(1) 各種会計は適正かつ適切に処理している。 ※原則として現金授受は行いません。					
	(2) 保護者に請求する経費や予算は、「園だより」や「れんらくアプリ」等で適切に連絡が来る。					
	(3) 推奨する保険や、教育料の無償化に係わる情報提供は適切である。					

他 所 ・ 他 機 関 と の 交 流	(1) 保護者の会（おひさまの会）の活動に園の施設を提供し、情報交換するなどして共通理解を図っている。 ※定例会、役員会等に便宜を図っています。						
	(2) 幼少接続教育に力を入れ、小学校校長による講演会を設けているほか、私立小学校や特別学級の情報提供を行い、教育理解を幅広く得られるように努めている。						
	(3) 他所・機関（含学校）の情報を入手し、園内の掲示板やHPで適宜公開している。						
幼 稚 園 と の 関 係	(1) 保護者と幼稚園（担任）との関係は概ね良好である。						
	(2) 幼稚園（担任）は保護者面談や相談の希望に適切に応じている。						
	(2) 幼稚園（担任）は保護者の関心事や要望等に適切に対応している。 ※希望者に専門家による初回無料のカウンセリングを提供しています。						
地 域 と の 交 流	(1) 地域の行事に積極的に参加するなど地域の文化や生活を含め、地域住人に配慮している。						
	(2) 収穫体験の時期や内容は適切である。						
	(3) 幼児の興味や関心に基づく教育設計の下、学校や地域社会と交流している。 ※小学校や老人施設等との交流以外にも、中学生の「職業体験」を引き受けています。						
災 害 避 難 訓 練	(1) 毎月避難訓練（含引き取り訓練）を行い、災害時の避難場所や避難経路を適切に案内している。						
	(2) 災害時の避難場所は家庭や地域で共有している。						
	(3) 災害や不審者等の避難訓練や事前事後指導は、適切に行われている。						

項目	内容	評価				意見改善策等
		A	B	C	D	
	(1) 施設の活用に工夫を凝らし、「幼小接続準備講座」など修了後や修了児のための講座を設置しているほか、保護者を対象とした施設開放を行っている。 ※「しるでき®」「しるでき+®」「教養文化講座」など					
	(2) 長期休業中、園児に対する特別教育支援プログラム（夏期教育、夏まつり、にこにこ教室教育プログラム等）を実施している。					
	(3) 施設の活用に工夫を凝らし、「幼小接続準備講座」など修了後や修了児のための講座を設置しているほか、保護者を対象とした施設開放を行っている。 ※「しるでき®」「しるでき+®」「教養文化講座」など					
子育て支援の推進	(1) 「園だより」や「れんらくアプリ」、ホームページ等で本園の情報を適切に発信している。					
	(2) 本園の行事（学事日程）や子育て支援事業（預かり保育）等は地域の施設や団体、小学校等に周知している。					
	(3) 第三者評価（自己評価・学校関係者評価委員会）を導入し、経営や教育に反映している。 ※「おひさまの会」会長は委員として会議に参加					

◎その他（本園の教育や保育、経営に資する意見や提言があれば、以下に自由に記述してください。）

以上

年 月 日記入

歳児学年

組 氏名